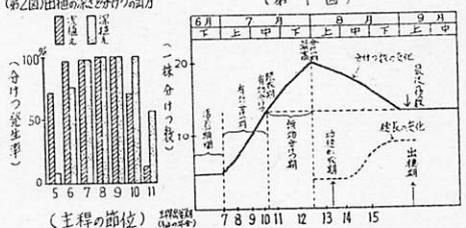


農業特輯

科学的肥培管理 田植—除草を研究しよう

普通田植の田植は六月下旬であるが六月二十五日直の場合の種生立ちの経過を調べてみよう。種生立ちを調べるには、その見方があるが、ここではそのうち最も大切と思はれる年(分)の数の変化と種生率(母葉の葉の出た(1苗)の進み方を取上げて見ると第一図)活着期を調べる。種生率の増加が始まるのが初め、種生率が増え急激となら再び緩慢となる。大体七月下旬に一株分けが最も多くなる。この時期を種分け期といっている。



第1図 種生率の増減と種分けの時期

多くのことで、馬鹿の青田育めといふ言葉もこの間の事情がよく物言いつてゐる。したがって有効分けて早く確保し無効分けての発生を抑えておくことが大切である。以下からの種作について注意すべき点を簡単に述べると、一、田植

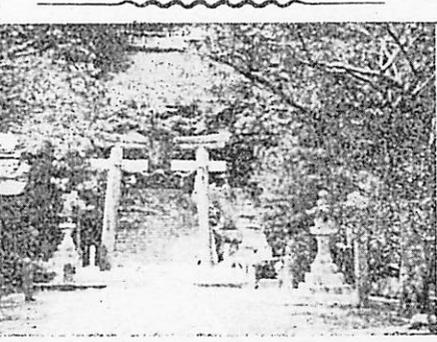
病虫害防除その他苗代管理については前号に記述したが、病虫害の防除は必ず実施してやるべきである。特にイモチ病も多々発生するのでセレン石炭酸やオクタンダスト等を散布してから田植しよう。

種分けの時期は本葉六、七枚で葉色がやや黄色になった時が最も適当である。その間に特に肥料切れの場合には若干の追肥をしてよいが今年には特に天候不良でイモチ病発生危険が大きいので時期及量に注意しよう。

正姿種は本田の生育は初期から生育の遅いもの有効分けておくべきである。一般に分けておくべきである。途中に分けておく最後の種分け期になった時期は有効分けておくべきである。これはこの時期が出現した分けておくに当たって無効にするか残目に当てるからである。

暖地の種作りではとくわらの目方に対するもみ方の割合が小さくならなければならない。大きな原因は無効分けての発生が

徳地町 神社仏閣めぐり —花尾八幡宮の巻—



徳地町大字島地の地にあるこのお宮は、元明天皇の和銅四年に、今の大字島宇佐八幡宮の御分霊を山に祀られたのを起源と伝えられ、往古徳地は上徳地、下徳地に分れ、藩政時代上徳地は十二ヶ村よりなり、その後二度の大火災にあい、炎上焼絶にひんしたのを、留守毛利元公新に堂宇を造営し八月十八日遊幸式を挙げしを以て、是を恒例の祭日とせられたが後明治になり太陽暦に改められたので十月一日、二日に改められるに至つた。

寛延元年の社由由来書によると氏子戸数二千四百余戸を有し、筋河内の三神社、上村の新宮社の二社及び末社二十八社あり、室暦年間、り上徳地々方の租税中、現米を納納して必要経費に充當せ

極力植傷みを少なくすること。この為には除草を植えることと田植後の灌水が必要で植栽が終ると土を入れて三程度の深さにして苗の揺動、腰折れ、植傷みを防ぐことにし、四五日すれば徐々に浅水にする。

ばならない(培土栽培は冷水地や稲田秋落地などでは結果が良い)種分けの深さ

苗が浮上らない程度になる(一寸位を標準とす)深植することと生育が悪く(特に初期に分けて)主根節位五、六に初期に少なくなら減収する。湿田、水害や病虫害で苗の弱つたこと、不良苗の場合には(第一)つり深植の影響が現れる。(第二)浅植にするには苗の根元を良く揃えて充分水洗し根と雑草を除き田面を平らにする。

二、活着期の管理

活着期は、イモチ病の発生も多々と思はれるので早目に防除する。イモチ病も発生し易い環境にあるので注意し発生を認めたら直ちに防除する。

二、除草

除草の目的の外に根株の周囲の土を除いて分けつて出す目的が目的で手取り(元草)が良い。病虫害の防除

ニカメイチュウは田植後二週間頃に薬剤散布するのが多い。又ツルカゴカイの発生も多いと思はれるので早目に防除する。

ニカメイチュウは田植後二週間頃に薬剤散布するのが多い。又ツルカゴカイの発生も多いと思はれるので早目に防除する。

健康に必要なビタミンA及びCは出来るだけ野菜を沢山食べてこれらのビタミンを自給することと田植後の灌水が必要で植栽が終ると土を入れて三程度の深さにして苗の揺動、腰折れ、植傷みを防ぐことにし、四五日すれば徐々に浅水にする。

健康に必要なビタミンA及びCは出来るだけ野菜を沢山食べてこれらのビタミンを自給することと田植後の灌水が必要で植栽が終ると土を入れて三程度の深さにして苗の揺動、腰折れ、植傷みを防ぐことにし、四五日すれば徐々に浅水にする。

徳地町大字島地の地にあるこのお宮は、元明天皇の和銅四年に、今の大字島宇佐八幡宮の御分霊を山に祀られたのを起源と伝えられ、往古徳地は上徳地、下徳地に分れ、藩政時代上徳地は十二ヶ村よりなり、その後二度の大火災にあい、炎上焼絶にひんしたのを、留守毛利元公新に堂宇を造営し八月十八日遊幸式を挙げしを以て、是を恒例の祭日とせられたが後明治になり太陽暦に改められたので十月一日、二日に改められるに至つた。

健康に必要なビタミンA及びCは出来るだけ野菜を沢山食べてこれらのビタミンを自給することと田植後の灌水が必要で植栽が終ると土を入れて三程度の深さにして苗の揺動、腰折れ、植傷みを防ぐことにし、四五日すれば徐々に浅水にする。

健康に必要なビタミンA及びCは出来るだけ野菜を沢山食べてこれらのビタミンを自給することと田植後の灌水が必要で植栽が終ると土を入れて三程度の深さにして苗の揺動、腰折れ、植傷みを防ぐことにし、四五日すれば徐々に浅水にする。